

# ノーリフト通信 (第5号)

令和元年11月発行

みなさま、こんにちは。今号は今後、園内での使用機会が増すと考えられる吊り上げ式リフトについて、使用方法や使用している上で感じた注意点を掲載しようと思います。

リフトのUPはこのレバーを上下に動かし、

Downはバーの根本のこのボタンを



レバーで押し込み、ボタンを押します。



中央にはレバーがあり、踏み込むことで



この部分に吊るす為のシートを引っ掛けます。



開閉します



脚部を開くことで車椅子など中に入れリフトのUPDownが出来ます。

ちなみに・・・

《リフトの所在》

手動(1機) → 1階：2H居室

電動(3機) → 1階：1H居室、2階：6H居室・物品倉庫 です。

《使用利用者》

手動(1機) → 2・4H：短期利用者

電動(3機) → 1H：長期利用者、8H：短期利用者 です。

声を掛け合って  
使っていきましょう♪

リフトを使うにあたっての最も留意すべき点は

**【吊り上げられている方（利用者さん）に恐怖感を与えない事】**  
と考えています。そこで、それを踏まえた使用中に考えられる  
ポイントをお伝えします。



リフトを降ろし、シートを外した際、  
身体が  $\Sigma(\Delta)$  とならない様  
**【外す前に身体の部位を支える】**



何かしらの場所に降ろす前には  
**【接触する部位の  
状態を確認】**  
しましょう。特に足先は要注意！



吊られている状態において  
**【膝～足先は最も何かに  
接触する可能性がある部位】**  
です。  
ベッド、車椅子、移動中 etc・・・



リフトを上げる：レバーを **【大きく】** 上下に動かす  
リフトを降ろす：ボタンを **【しっかり押す】** 様にしましょう。  
操作が甘い（レバーの動かし方が小刻み、ボタンをしっかり押せていない）と  
吊られている方が  $\Sigma(\Delta)$  と揺れてしまいます。

と、この様な感じですが、これは一例に過ぎません。他にも吊り上げシートの  
仕掛け方、リフト自体の移動・・・などもありますが、それは吊り上げる対象の状態  
によって千差万別でしょうし、言葉や紙面だけでは伝わりにくい事もあると  
思いますので、まずは職員間などで **【とにかく、使ってみて】** はいかがでしょうか？  
リフト操作側 or 吊られる側 となる事で見てくるものもあるかと思ひます。

最後に、これは違った視点での考え方なのですが、  
道具・器具を使うにあたっての大切な事として

**【メンテナンスも重要！】** と思っています。

道具や器具は使う毎に負担が掛かり、積み重なると、それは思わぬ事態に  
発展する可能性があります。今後、使用頻度が上がっていく様であれば  
定期的なメンテナンスも必要かも知れません。

これについてはメンテ箇所の把握・方法も含めて、今後の課題かと思っています。